



Gestational surrogacy in the US and UK: From ex-surrogate's perspective.

米国と英国における代理出産:
元代理母としての経験から

Interviewee

Brilliant Beginnings
Alyssa Martin

Q. 米国と英国では代理出産に対して全く異なるアプローチをしています。代理母経験者として、それぞれ **pro** と **con** を教えてください。

代理母として最初の経験は、2014年に米国カリフォルニアで子どもを出産したこと。エージェントに登録してフランス人カップルとマッチングした。双子を妊娠していたが、38週まで実際にそのカップルと対面することはなかった。それまでは、スカイプやメールを通しての会話ができるだけだった。最終的に関係を築くことはできたが、難しかった。

米国のやり方で良かったのは、“Pre-birth order”の制度があったこと。これは、赤ちゃんが生まれたらすぐにカリフォルニア州の出生証明書に依頼親の名前が記載されるという手続きのこと。この制度は、簡単に手続きができ、契約書として法的強制力もある。これとは対照的に、英国では出生証明書に掲載されるのは私と夫の名前で、それを依頼親に変更するまでに9か月もかかった。

2度目の代理母は、2020年に英国で経験した。Brilliant Beginningsという非営利団体に登録した。最初、依頼親とのマッ

グまで多くの時間を費やした。依頼親が私の子どもたちと交流する機会があり、依頼親の人となり判断することができた。しかし、その後の体外受精は何度も失敗し、妊娠するまでに約18か月もかかった。辛かったが、依頼親とは強い絆をつくることができ、それはかけがえのないものになった。

米国と英国のどちらが良いとは言えない。どちらにも良い点と悪い点があるから。でも、もう一回代理母になるとするのなら、依頼親とは親密な関係を築きたいと思うし、実際に会いたいと思う。米国での最初の代理出産は遠距離だったためそれが難しかった。英国は法的な面で改革が必要だ。

Q. 代理母になる前と後で、代理出産のリスクについての理解に違いは生じましたか?

それはあった。最初の代理出産の時は、急いでいたと思う。意欲はあったものの、実際のプロセスについてはよくわかっていなかった。そして、当時世話をしてくれていたエージェントは比較的新しく、経験も少なかったため、十分な準備ができていなかった。

Brilliant Beginningsは全てを網羅しているエージェントだと思う。依頼親と代理母が、国ごとの法律の違いも含めて、法律についてきちんと理解する時間をとってくれた。

Q. 代理母になりたい女性の属性、動機や、報酬に対する期待、依頼者との交流希望、などについて、米国と英国で違いは見られますか?

ある。商業的代理出産の場合、対価が生じるので代理母と依頼親の力関係は対



等になる。そして、依頼親は、よりバランスが取れた方法で感謝の気持ちを表すことができる。利他的代理出産では、依頼親がお礼を表す具体的な方法がない。だから代理出産の期間中に代理母が大きな力をもつことになる。しかし利他的代理出産は、依頼親が多額の謝礼金を申し出ることを防ぐことにもなる。出産後、代理母はすこしだけ悲しい思いをすることがある。依頼親は自分たちの新しい生活に移り、別のところに関心が向いてしまい、代理母に関心がなくなる。

もし対価を認めれば、代理出産に興味はあっても、色々な理由で参加を躊躇していたより多くの女性に門戸が開かれると思う。代理母の側から見ると、それによって多くの時間や労力が失われたり、家族との時間が失われたりするから。そもそも、どんな代理出産にも、利他的な要素はあるものだ。ある程度やりたいというボランティアの気持ちがなければ、対価があってもやらない。報酬があれば、後押しになる。利他的欲求を優先することができ、そのために失う時間と金銭を犠牲にすることもない。

両方経験してみて、私は自分の夫と子供たちが払う犠牲を考えると、商業的代理出産に参加するほうが妥当だと思う。

Q. ご自身のお子さん、夫には、代理出産についてどのように説明し、理解してもらいましたか？

最初の代理出産の時は、子どもは息子ひとりで、まだ幼かったので理解していなかった。夫はとても協力的で、対価が払われると聞いて驚き、喜んでいた。

2度目は夫と私が共同で決定した。私が英国で出産できるようにするため、夫は前もって子どもたちを連れて日本へ行っ

た。夫のサポートは不可欠だった。彼に恩返しをしたい気持ち。

Brilliant Beginnings では、代理母のパートナーが協力的な場合のみ、代理出産のプロセスを進める。パートナーがいない場合でも、少なくとも誰かひとりサポートしてくれる人物が周りにいないといけない。

2度目の代理出産の時、私は自分の子どもたちには正直に、分かりやすく説明した。子どもたちは依頼親に何度か会っていたので、代理出産の考え方を理解することができたうえ、他人に話すことも抵抗がなかった。最近では、赤ちゃんはどうしているかなどと聞いてくるようになった。最初から、赤ちゃんは自分たちのきょうだいではなく、一緒に暮らすこともないということをちゃんと理解していた。

Q. 代理母と依頼者の関係が悪化した場合、その原因は何でしょうか？どのように解決すればよいのでしょうか？

コミュニケーションが一番大事な要素。コミュニケーション不足で誤解が生じていると思う。

Brilliant Beginnings では、先着順で代理母と依頼親を機会的にマッチングしていくようなことはしない。そうではなく、双方のプロフィールを吟味し、直接話すのがよいか、それともメールがよいかなど、どのようなコミュニケーション方法を望むかというような細部にまで注目してマッチングする。

特に最初の時は、「連絡がこない」というような不満が出る時がある。早い段階で報酬などお金に関する話を話し合うのは難しいだろうから、**Brilliant Beginnings** は誤解が生じないようにこのよ



うな会話がスムーズにできるよう手助けしている。

Q. 代理出産で、ハッピーな場面、困難と感じる場面、それぞれを教えてください。

一番ハッピーな場面は、依頼親が初めて赤ちゃんを抱いた様子を見るとき。自分と依頼親が協働したすべての集大成をみるのは魔法のような瞬間。愛情が育っていくのを見るのは素晴らしい。あらゆる痛みと苦悩を経て、投薬そして治療をやった甲斐があった。この瞬間を捉えるために写真を撮ることを強く勧める。

辛かったのは、2度目の代理出産の時、流産と体外受精の失敗が重なったこと。最初の代理出産はとても簡単だったが、2度目は5回の移植に失敗し、3回の流産を経験した。これは肉体的に大変だったし、依頼親が成功させようともがいているのを見るのは心理的につらかった。異性カップルの場合は、たいていは代理出産を始める前にすでに数回のサイクル治療を経験している。だから、彼らにとってはさらに失敗が増えたことになる。難しい話し合いがなされる局面もあった。代理母と依頼親ともに強いレジリエンスが要求される。

Q. 代理母へのサポートは米国とイギリス、どちらが充実していますか？ 代理母同士のネットワークやサポートグループはありますか？

米国のほうがサポートは充実していたと思う。これは現在、米国の多くの州が代理母を守り、代理出産契約を認める包括的な法律を持っているから。特に、カリフォルニア州には、代理母は21歳以上で、自身の子どもを持つ女性に限るとい

う厳しい法律がある。これは、感情面に対処する準備が整っていない若い女性が、代理出産に臨むことがないようにするため。また、代理母が子どもを手元におくことはできないようになっており、依頼者の権利は保護されている。

米国では中絶の問題など事前に話しあっておかなければならない重要な問題を確認するために契約を交わす。

Q. 妊娠中に胎児に障害が見つかった場合の中絶について、代理母経験者としてどのような見解を持っていますか？

それは依頼親が決めることだと思う。子どもと一緒に暮らすのは彼らだから、彼らが決めればよいこと。自分の選択とは違ったとしても、口を挟むべきではないと思う。この点について代理母と依頼親は見解を統一すべきだと思う。クオリティ・オブ・ライフなどキーとなる概念について掘り下げて定義することが大切。「中絶しなさい」と言うのに倫理的な方法はないが、依頼親が望まないのに妊娠を続けるのは、代理母にとっても同じように苦痛が伴うことだと思うから。

自分の身に危険がない限りは、依頼親の希望に従う。ダウン症の子どもを育てたいという希望があったり、子どもが出生後に亡くなることがわかっているのに妊娠を続けてほしいと言われたら、そうする。

私は妊娠初期に通常の血液検査と超音波を行ったが、依頼親はその後の遺伝子検査を希望しなかった。彼らは子どもの性別を知りたがらなかった。私だったら別の選択をしたと思うけど、依頼親は子どもが誕生するまで性別を知らなかった。

代理出産がほかの妊娠と比べてより危険だとは思わない。しかし例えば、ほか



の子どものためにはできないが、自分自身の子どものためなら対処できるリスクがある。2型糖尿病になるリスクや抗不安薬の処方をやめることなど、自分のための妊娠と代理出産の場合とで対処が異なるケースがある。Brilliant Beginningsでは、この二つを区別して考えるようアドバイスしている。

Q. 代理出産で産んだ子供たちと今も交流していますか？ このような交流の機会は、代理母にとって重要ですか？

今も2組の依頼親と連絡を取っている。どちらの関係も、彼らのために赤ちゃんを産み、渡すことをきっかけに始まったものだ。

英国に住んでいたころは、3-4か月に一度はフランスに住む双子に会いに行くことができた。とても楽しかった。私の子どもたちは、フランスの双子のことをフランスのいとことして認識していた。双子の母親はほぼ毎月のようにメールで写真を送ってくれる。私たちの関係は自然で無理のないもの。そこにプレッシャーはない。

もしその時、英国への渡航が可能になっていたら、クリスマス後に2回目の代理出産の子どもと家族に会いに行きたいと思っている。その母親とも毎月のようにコンタクトを取っている。Brilliant Beginningsは依頼親と代理母のマッチングに多くの時間をかける。米国のエージェントはビジネスライクで依頼親と代理母が理解を深めるための時間をそれほどとらない。その点はかなり異なる。

Q. イギリスとアメリカで代理母になって、それぞれいくもらいましたか？

米国では航空券代、宿泊費、医療費と保険を含む経費として約20,000米ドル受け取った。また、報酬として30,000米ドルと、双子を身ごもっていたために発生する追加費用(双子用のマタニティウェア、安静が余分に必要となりその間のチャイルドケアの費用)として、さらに5,000米ドル受け取った。

英国ではすべてをカバーした基本経費として15,000ポンドを受け取った。当時のCOVIDの方針に従って、依頼親は私立病院への転院を希望した。これにより、依頼親は追加で最終月のマタニティケアと出産時に病院で過ごした二日分の経費12,000ポンドを追加で支払った。

双子の妊娠はもう嫌だ。たとえ追加の対価が払われたとしても。とにかく大変だったから。双子を産んだ時の対価は適切な額だったと思うけれど。

Q. 白人の依頼者は白人の代理母を、アジア系の依頼者はアジア系の代理母を好むなどのパターンはありますか？

英国と米国ではかなり異なる。英国の人口の85%が白人だから、依頼親と代理母の白人比率も高い。

米国では、白人カップルは代理母の人種についてこだわりがない人が多いように思う。それに比べ、黒人カップルは、共通の文化や経験を持つ黒人の代理母のほうがやりやすいと感じているように思う。

必ずしもそのように要求するとは限らないが、似通った経済状況や文化的背景を持っていたほうが関係はうまくいく傾向がある。

白人家庭のほうがお金持ちで社会的に受け入れられているので、白人のほうが代理出産を利用する傾向がある。しかし、黒人の数も増えてきている。



過去10年でみると、代理出産を依頼するアジア系、ヒスパニック系の家族の数が顕著に増えたというようなことはないと思う。今後どうなるかを予測することはできないが、ヒスパニック系家族では、カトリック信仰を持っていることが多いので、受け入れられにくいのでは。

Q. 日本では不妊治療を受ける患者が非常に多いです。日本の文化に代理出産は合うと思いますか？

日本人カップルにとって、代理出産は良い選択肢になると思う。日本では仕事が重要で人々は忙しく、妊娠するタイミングを見つけるのが難しい。代理出産はその妥協策となりえるのではないかと。政府は援助すべきだ。

もし代理出産に対価が払われるとすれば、仕事復帰を望まない女性にとって、在宅で家族を養う手段となるかもしれない。

Q. Brilliant Beginnings で代理出産を依頼する英国人の中で人気の渡航先はどこですか？ その理由は？

Brilliant Beginnings では3つのオプションがある。一つ目は英国内で行うこと。しかし代理母不足のため、現状では代理母を見つけるのに2-3年待ちがふつう。二つ目は米国。保険と旅費の面でかなり割高になる。三つ目はカナダで、こちらも費用がかさむのは同じだが、米国に比べれば抑えられる。

カナダと米国は比較的早く進む。マッチングから子どもの出産までが2年以内で進められる。

Brilliant Beginnings では海外での代理出産を基本的に勧めていないが、非営利団体として法律事務所 NGA と提携してお

り、ジョージアなど海外から英国に子どもを連れてくる親のために法律面での助言を提供することができる。

Q. 代理母不足はどのようにすれば解消できますか？

対価を支払うことができれば、英国で代理母になろうとする女性を増やすことができるだろう。すでに興味を持っているが、家族のために金銭的な対価を得られないことが引っかけで決断できない女性が少なからずいる。対価が発生すれば、時間と労力と犠牲を払う価値のある事と感ずることができるようになり、代理母の数を増やす一助となるのではないかと。

米国では、代理母は今もやや不足している。しかし、それはプロセスと関係がある。代理母が十分に理解し、準備ができていないかを確認するのに時間がかかり、急いで進めることができない。これには6か月かかる。

Q. ゲイカップルの依頼者は代理母を探すのがより困難だということはあるですか？

米国と英国では、そのようなことは感じなかった。Brilliant Beginnings は少し偏っているかもしれない。なぜなら、ゲイカップルやトランスジェンダー、そしてシングルの人々をもクライアントとして積極的に取り込んできたから。そのため、ほかの団体より多様なクライアントを抱えている。

Q. Brilliant Beginnings では、渡航先の国について何か特別なコネクションや情報を持っていますか？

持っている。Brilliant Beginnings と NGA は、英国の法律が時代遅れだったため、



法的プロセスを容易にするために努力してきた。

子どもの誕生から英国に連れて帰るまでにかかる平均日数は6-8週間。書類に不備があればさらに延びる。Brilliant Beginningsは依頼親に、確立された方法に従うようアドバイスをし、国境を越える際に使うレターのテンプレートを提供している。

Q. インドやタイ、カンボジアなどでは代理母の搾取が問題になり、商業的代理出産が禁止になりました。何が代理母の搾取に当たりますか？

搾取の問題を注意深く取り除かなければならない。女性が必要に迫られて代理母になったり、強制的に妊娠させられたりする状況におかれるべきではない。

代理出産に際して代理母のウェルビーイングが確実なものとなるためにきちんとした法律を作らなければならない。依頼親を法律で守ることも重要。依頼親に何かあった場合に誰が子どもの面倒をみるかなどにまで広げて考えなければならない。

Q. Brilliant Beginningsは代理出産法改正についてどのようなロビー活動を行なっていますか？

Brilliant Beginningsは、イギリス政府に影響を与えようと尽力している。私たちは法律を変えるために議員や地方自治体に接触している。時代遅れの英国の法律を変えるために精力的にキャンペーンを行っていたが、COVID-19でその勢いはやや失われた。

特別なロビー団体はないが、重要人物と率直に対話を進め、英国の代理出産の

現状と法律の限界について政府や国民に知ってもらおうと努力している。

Q. 子宮移植について、どう思いますか？ 代理母で、他の女性のために自分の子宮を提供してもいいという人がいると思いますか？

子宮移植はスカンジナビアで試験的に行われていた2012年ごろに初めて耳にした。その後、2018年に米国で行われていた時にも耳にした。ほかの人の助けになるのであれば、喜んで自分の子宮を提供したい。ほかにも同じように思っている女性を知っている。もし自分の家族を作り終えたら、必要とする人にそれを渡してもいいのではないか。手続きが簡単であればもっといいと思う。

(2021年8月)



Alyssa Martin [Link](#)

英国と米国で代理母として出産した。

現在は、英国での代理出産の際にサポートを受けた非営利団体 **Brilliant Beginnings** において代理出産のマネージャーとしてサポートしている。

家族は米軍勤務の夫と二人の息子。インタビュー時は日本に在住。